

# 結果をご覧になる上での注意点

- 回答者は全員、ファイザー社製ワクチンを接種していますので、その他のワクチンを接種した方には参考にならない可能性があります。
- アンケートへの回答者は、接種者全員ではなく、任意者のみのため、真の結果より頻度が高かったり低かったりする可能性があります。
- 今回のアンケートは、副反応の出現の頻度の調査のみです。その副反応が軽かったのか辛かったかなどの症状の程度については調査していません。
- 参加者の年齢は18歳～67歳までであり、範囲外の年齢の方には参考にならない可能性があります。

# 筑波大学附属病院職員を対象とした COVID-19ワクチン接種の副反応に対する アンケートの結果

2回接種が終了した**958名**の職員の方々にご協力いただきました。

年齢			
中央値	42歳		(範囲：18～71歳)
18～29歳	176人	18%	
30～39歳	235人	25%	
40～49歳	297人	31%	
50～59歳	182人	19%	
60歳以上	68人	7%	
性別			
女性	655人	68%	
男性	303人	32%	
薬物治療中の病気			
あり	266人	28%	がん治療薬：3人、ステロイド剤（軟膏除く）：14人、免疫抑制剤：4人、糖尿病治療薬：13人、膠原病治療薬：2人、抗凝固・抗血小板剤：10人、その他：236人（重複含む）
解熱鎮痛剤使用			
あり	549人	57%	

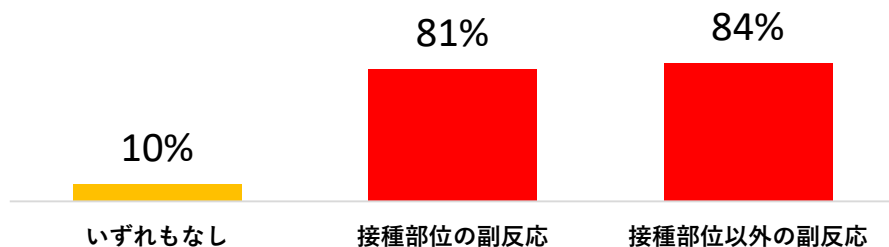
本アンケートは「がん薬物治療中の固形および血液腫瘍患者に対するCOVID-19ワクチン接種の安全性の調査研究」の一部として、2021年7月6日～7月30日に実施しました。

研究責任者：腫瘍内科 関根郁夫、研究分担者：感染症科 人見重美、消化器内科 森脇俊和

# 全対象者の結果

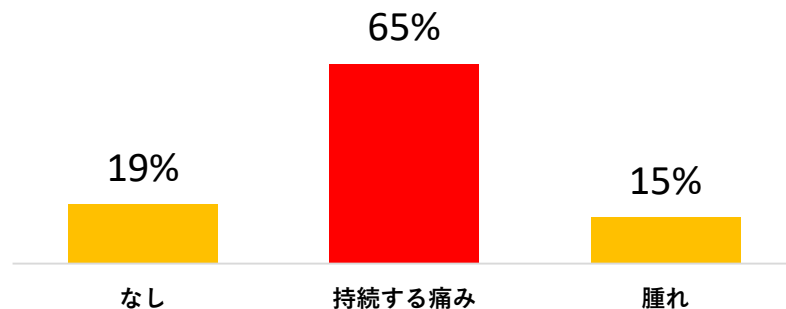
10%の方は副反応が出ませんでした。

「接種部位、それ以外」は、いずれも80%以上の方に出現しました。



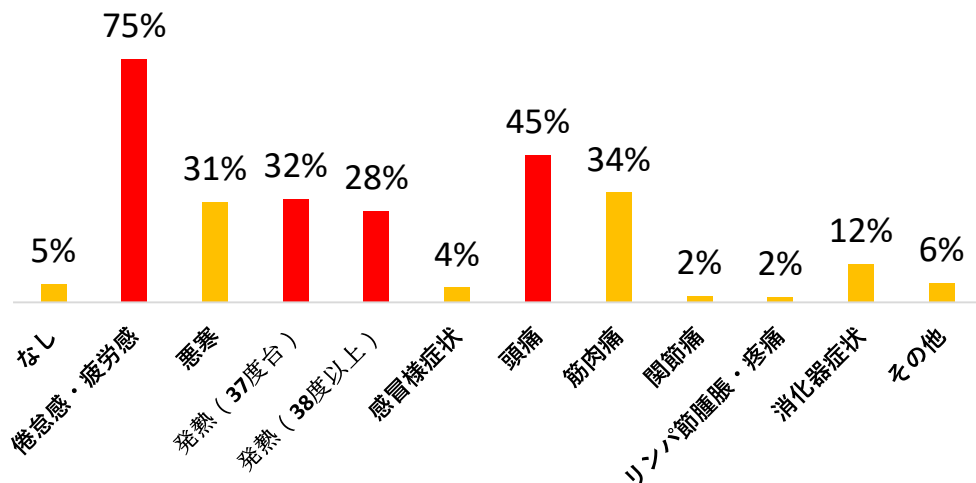
接種部位について

最も多かったのは「持続する痛み」でした。

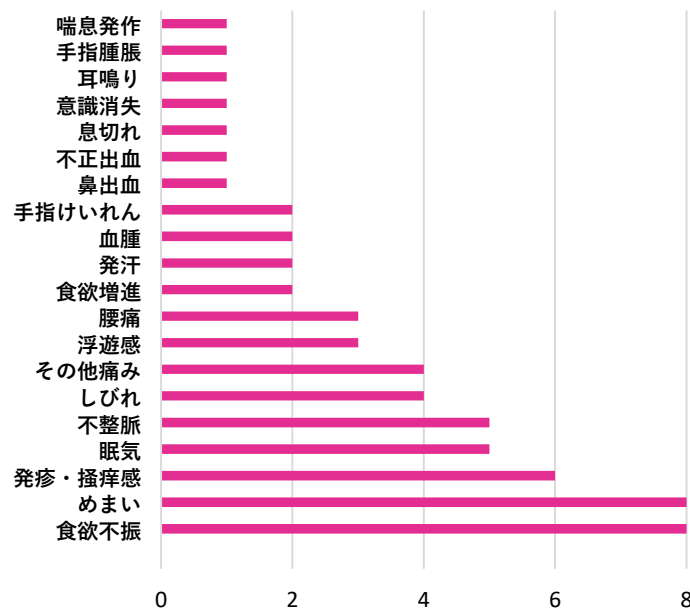


接種部位以外の副反応について

「倦怠感」が多く、次いで「発熱」、「頭痛」でした。

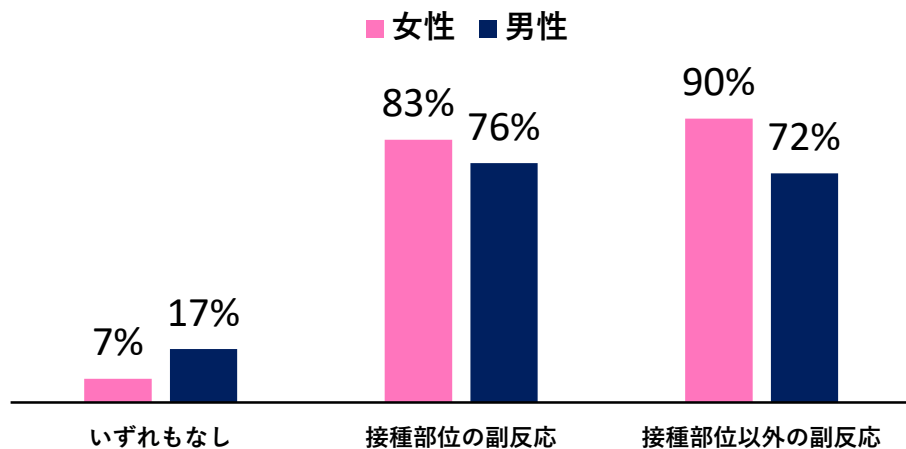


1%未満の方に出現した副反応

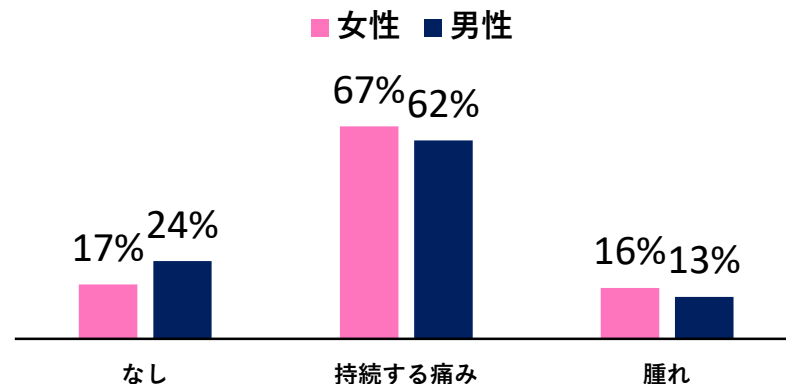


# 男女別の結果

女性に若干多い傾向がありました。

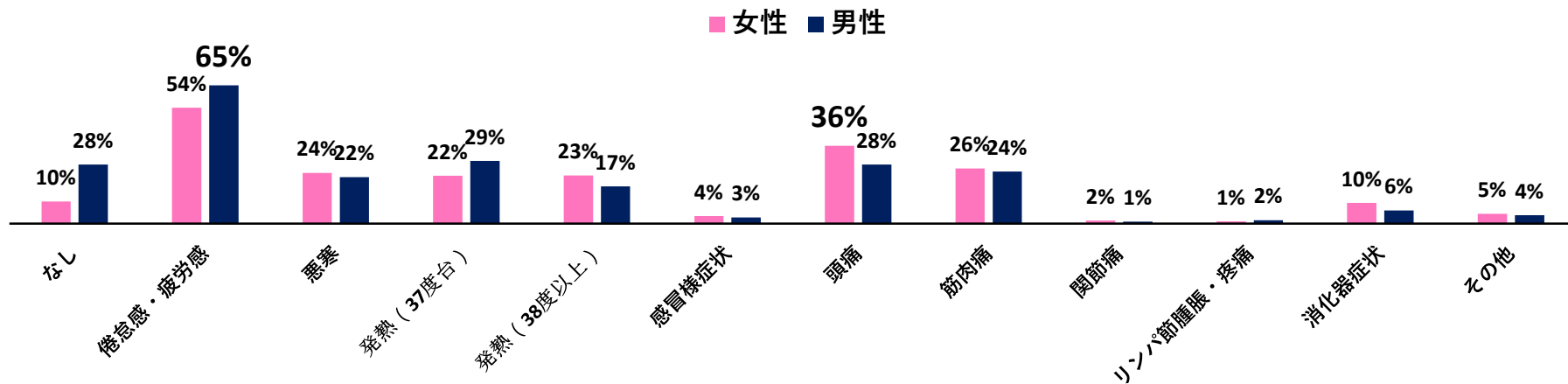


接種部位について  
どちらも同程度の頻度でした。



接種部位以外の副反応について

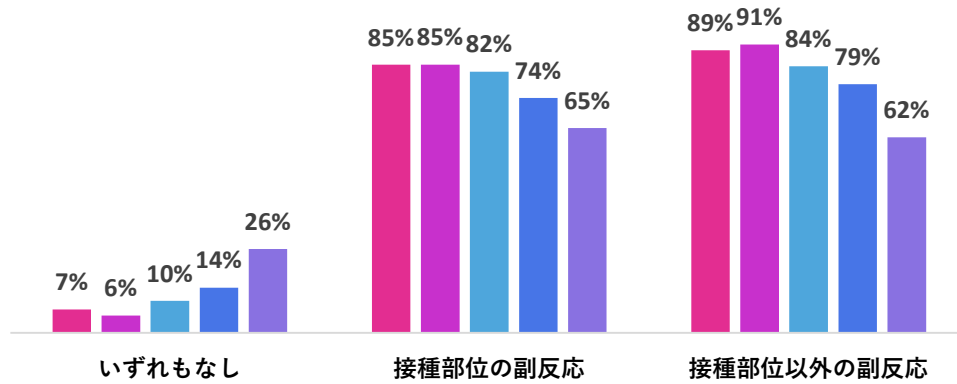
「倦怠感」は男性、「頭痛」は女性に多い傾向がありました。



# 年齢別の結果（1）

若年者に多い傾向がありました。

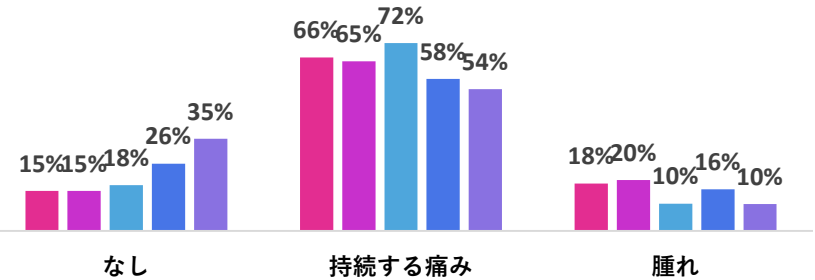
■ 18～29歳 ■ 30～39歳 ■ 40～49歳 ■ 50～59歳 ■ 60歳以上



接種部位について

やや若年者に多い傾向がありました。

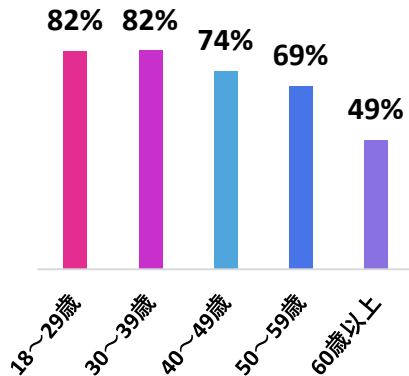
■ 18～29歳 ■ 30～39歳 ■ 40～49歳 ■ 50～59歳 ■ 60歳以上



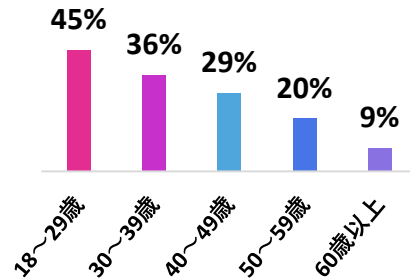
接種部位以外の副反応について

頻度の高い事象は若年者に多い傾向がありました。

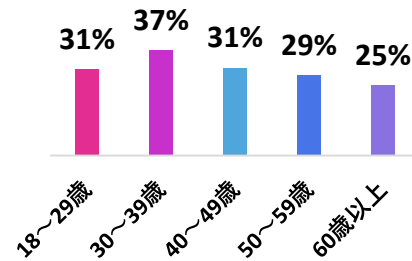
倦怠感・疲労感



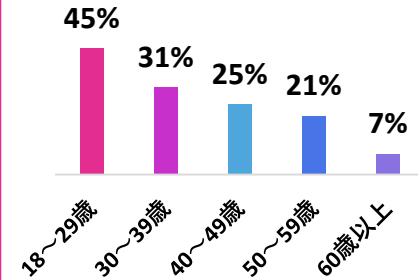
悪寒



発熱（37度台）



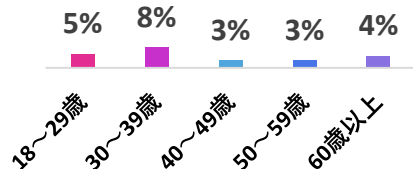
発熱（38度以上）



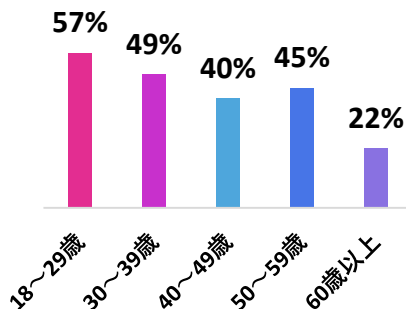
# 年齢別の結果（2）

接種部位以外の副反応について  
頻度の高い事象は若年者に多い傾向がありました。

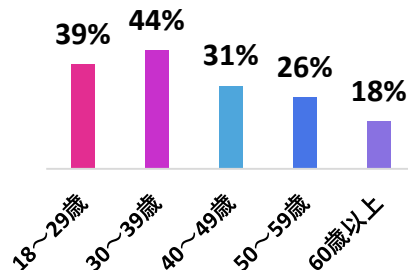
## 感冒様症状



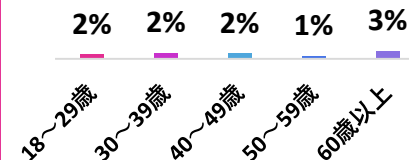
## 頭痛



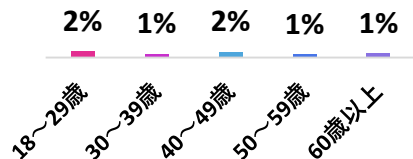
## 筋肉痛



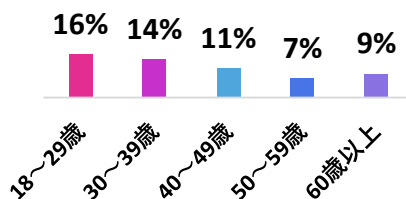
## 関節痛



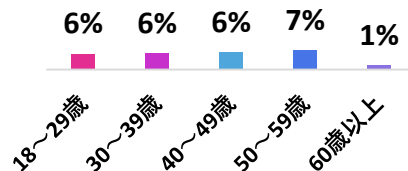
## リンパ節腫脹・疼痛



## 消化器症状

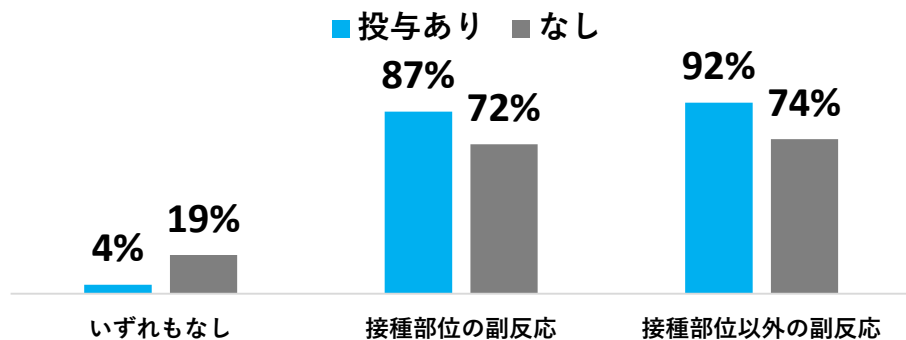


## その他



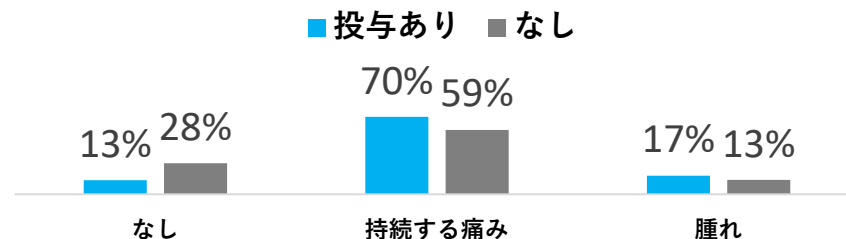
# 解熱鎮痛剤の使用別の結果

使用によって頻度が減少する傾向はありませんでした。



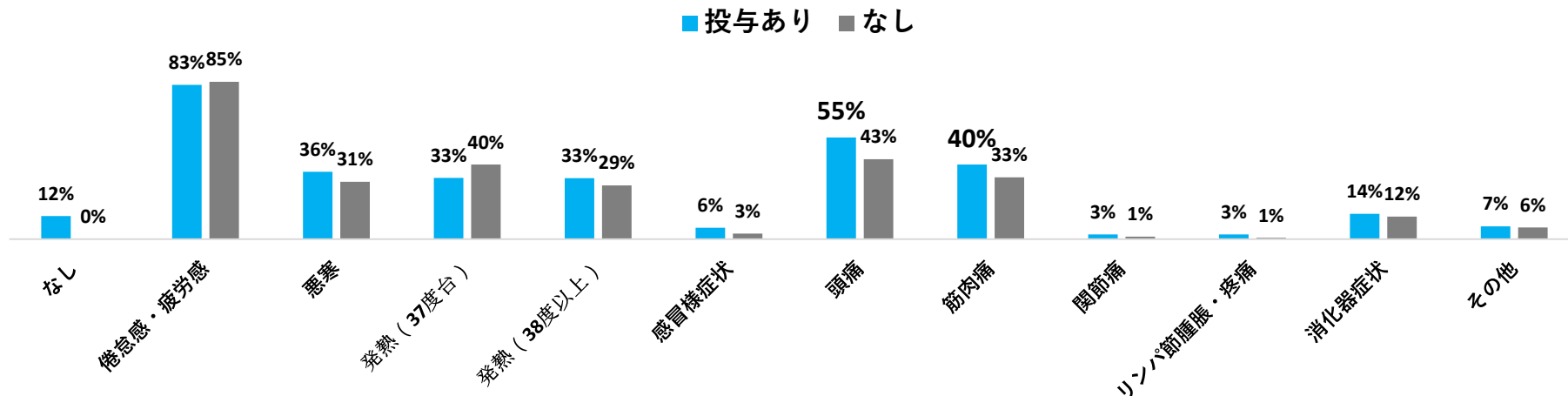
内服量や回数、タイミングには個人差があり、結果の解釈には注意が必要です

接種部位について  
投与した方に「持続する痛み」が多い傾向がありました。



接種部位以外の副反応について

投与ありの方に「頭痛」と「筋肉痛」が多い傾向がありました。

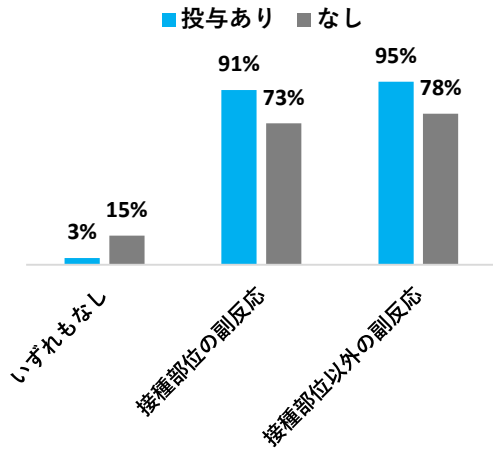


# 解熱鎮痛剤の使用×年齢の結果

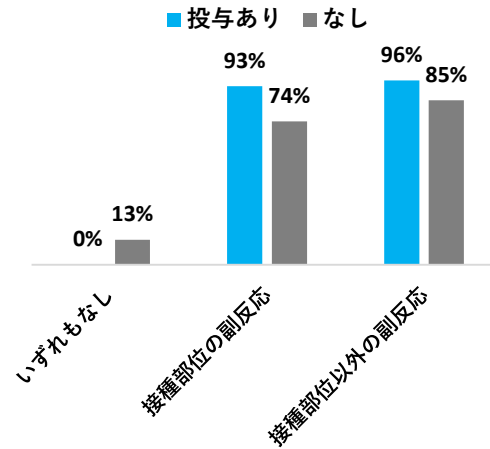
年齢にかかわらず使用によって減少する傾向はありませんでした。

内服量や回数、タイミングには個人差があり、結果の解釈には注意が必要です

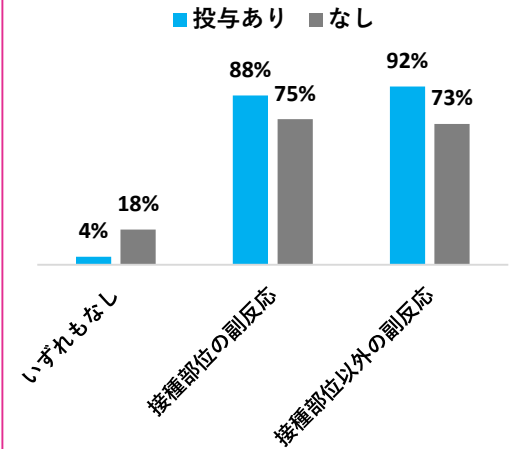
## 副反応（18～29歳）



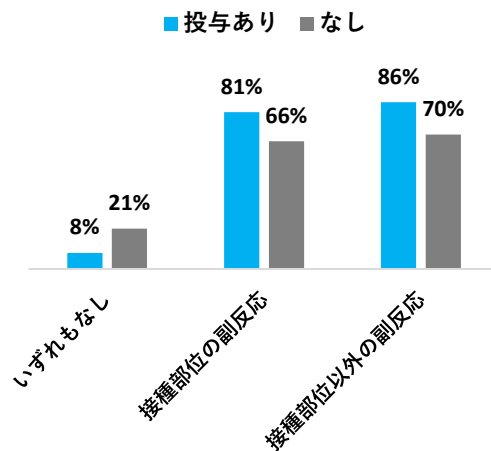
## 副反応（30～39歳）



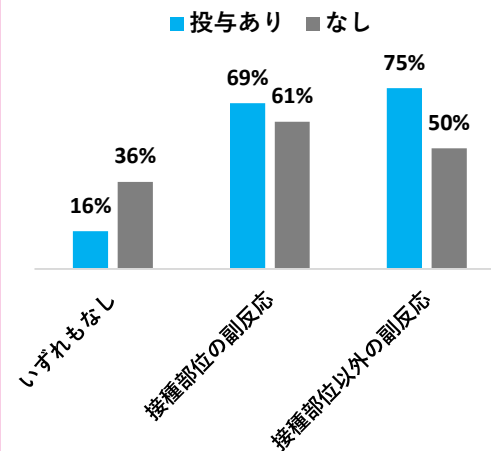
## 副反応（40～49歳）



## 副反応（50～59歳）



## 副反応（60歳以上）





# 結果のまとめ

- 全対象者
  - 約80%の方に副反応が出現した。
  - 接種部位では持続する痛み、接種部位以外では倦怠感・疲労感＞発熱＞頭痛の頻度が高かった。
- 男女別
  - 女性に多い傾向があった。
- 年齢別
  - 若年者に多い傾向があった。
- 解熱鎮痛剤使用別
  - 年齢にかかわらず使用者での頻度は低下しなかった。

注意点：アンケートへの回答者は、接種者全員ではなく、任意者のみのため、真の結果より頻度が高かったり低かったりする可能性があります。今回のアンケートは、副反応の出現の頻度の調査のみで、その副反応が軽かったのか辛かったかなどの症状の程度については調査していません。参加者の年齢は18歳～67歳までであり、範囲外の年齢の方には参考にならない可能性があります。